

令和7年度「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組 佐野市立田沼東中学校 全学年（第1学年～第3学年）

1. 取組の概要

(1) 生徒の現状等

田沼東中学校は、佐野市の市町合併により、平成17年2月より校名を変更し、今に至っている。学校として、生命尊重・人権尊重の教育の推進する中、「認め合い、支え合い、磨き合い、生徒主体の活力ある学校」を目指すことを通して、教育目標の具現化を図っている。

学校教育目標として『【ひ】 ひろく、豊かな心を育てる生徒（徳）』『【が】 がんばりぬく気力と体力を養う生徒（体）』『【し】 しんけんに学習し、学力を高める生徒（知）』を掲げ、目指す生徒像として『群竹の心』（群竹のように困難に決して負けず、たくましく、そして仲間とがっちり手を握り合い、支え合い、時には競い合い、切磋琢磨して成長していくという意）を基盤とした教育を進めている。

日常の教育活動において、安全で安心な教育環境のもと、生徒一人一人のよさや可能性を最大限に発揮できる<学業指導>の充実に重点を置き、『学びに向かう集団づくり』と『生徒が主体的に取り組む授業づくり』が進められており、自他の生命と人格を尊重し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を行っている。

(2) 期待する生徒の姿

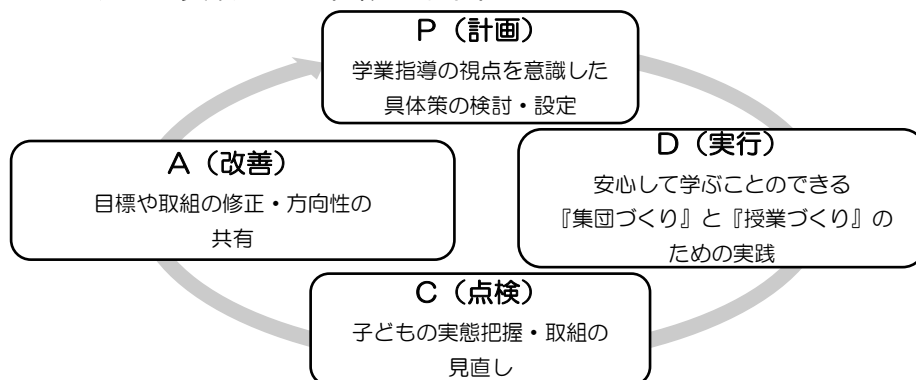
- 生徒一人一人が、学業指導の二本の柱である「学びに向かう集団づくり」と「生徒が主体的に取り組む授業づくり」を通して、安心して自分のよさや可能性を最大限に発揮することができる。
- 学業指導の充実を目指す中で、生徒の自己有用感を高め、自己理解と他者理解を深めながら、互いのよさに気づき、自信をもって行動することができる。
- 生徒一人一人が、互いのよさや違いを認め合い、励まし合い、高め合う、温かな関係づくりを通して、生命尊重や人権尊重をすることができる。

(3) 主な取組

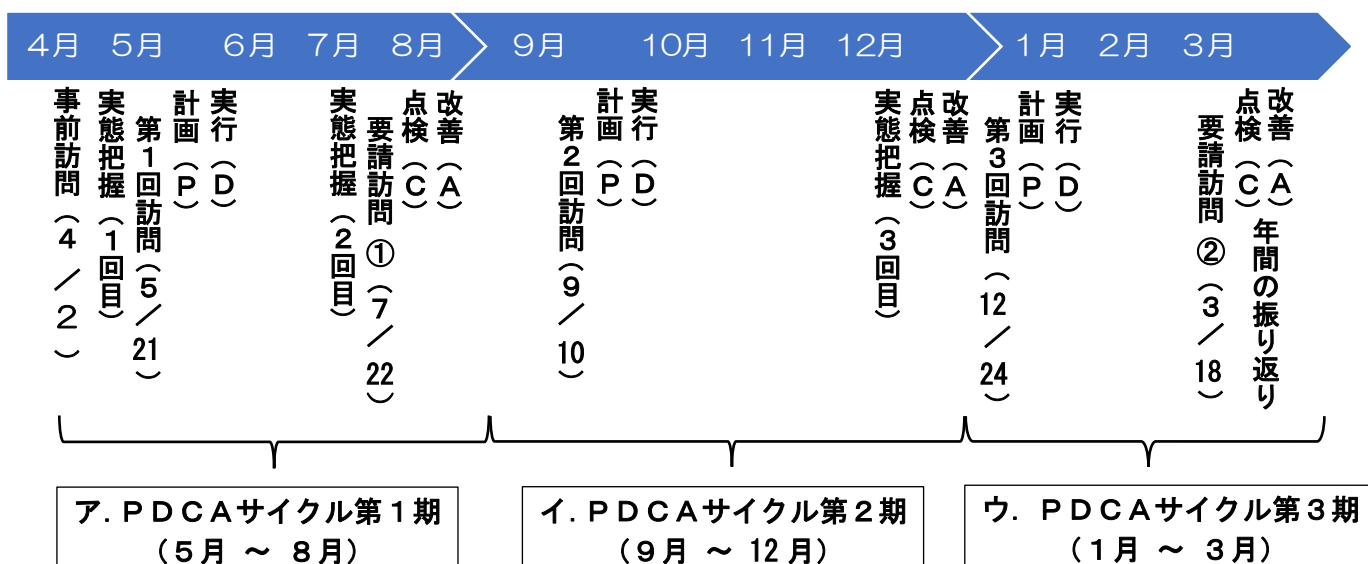
- 全学年（第1学年～第3学年）で取り組んだ組織的な実践
- 『集団づくり』『授業づくり』それぞれの視点を取り入れた具体的な取組の設定及び実施シート及び『集団づくり』『授業づくり』PDCA3サイクルを見通した実践シートの活用
- 具体的な取組の設定で取り入れた4つのポイント

- ・ 日常的に継続できるものであること
- ・ 学級全員を意識して取り組めるものであること
- ・ 具体的で明確な目標であること
- ・ うまくいっていることを生かすこと


- PDCAサイクルの実践による組織的な取組



2. 学校の取組スケジュール



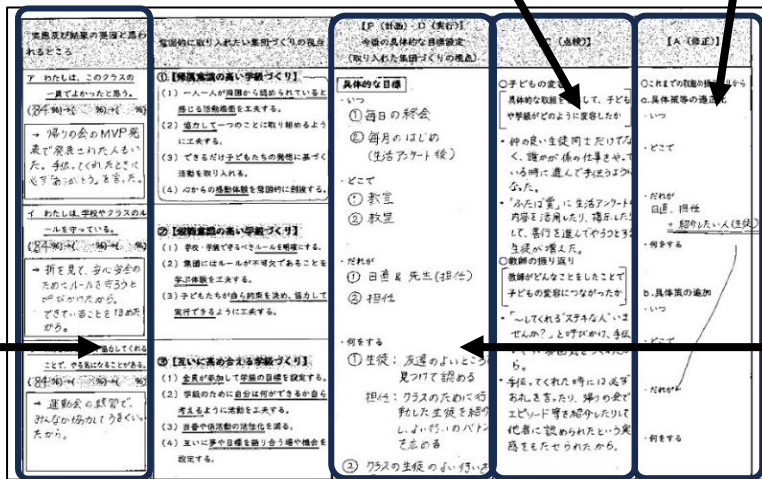
※ 実態把握では、学業指導における「学びに向かう集団づくり」の3つの視点（規範意識の高い学級づくり、帰属意識の高い学級づくり、互いに高め合える学級づくり）及び「生徒が主体的に取り組む授業づくり」の3つの視点（自信をもたせる授業づくり、コミュニケーション能力を育む授業づくり、一人一人の実態に配慮した授業づくり）を取り入れたアンケートを生徒に実施した。

<p>【事前訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校の状況等の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 応援チーム派遣事業の趣旨説明 ・ 応援チームの支援内容の説明 ・ 1年間の取組の流れ、第1回訪問の内容等の検討等 ・ アンケート調査結果について ・ 実施シートの説明 	<p>【第1回訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 第1期の目標設定（集団づくり・授業づくり） <ul style="list-style-type: none"> ・ 応援チーム派遣事業の趣旨説明 ・ 応援チームの支援内容の説明 ・ 「学業指導」についての説明 ・ アンケート調査結果について 	<p>【要請訪問①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 第1期の点検及び改善（集団づくり・授業づくり） <ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルの段階に応じた指導・助言
<p>【第2回訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 目標設定（集団づくり・授業づくり） <ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルの段階に応じた指導・助言 ・ アンケート調査結果の分析等 ・ 今後の学校の取組に関する検討 	<p>【第3回訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 第2期の点検及び改善（集団づくり・授業づくり） ◇ 第3期の目標設定（集団づくり・授業づくり） <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の取組状況の把握 ・ PDCAサイクルの段階に応じた指導・助言 ・ 前回のアンケート調査結果との比較や分析等 ・ PDCAサイクルを通じた取組の振り返り 	<p>【要請訪問②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 年間の振り返り（集団づくり・授業づくり） <ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルの段階に応じた指導・助言 

3. PDCAサイクルで進めた組織的な取組

(1) PDCAサイクル第1期の取組の詳細（5月～8月）

<p>実態把握</p> <p>生徒の実態から、先生方が、アンケート結果を元に、%の数値を記入した後、『集団づくり』、『授業づくり』それぞれ課題の原因と思われるところを検討した。次にアンケート結果から、なぜそのような数値になったのか、どんなことが結果の要因であったのかを考えた。</p>	<p>P（計画）・D（実行）</p> <p>P（計画）として、「1. あてはまる」の%の割合を高めるために、今後の取組の目標設定を考えた。「集団づくり」では、「帰属意識の高い学級づくり」「規範意識の高い学級づくり」「互いに高められる学級づくり」の三つの視点を、「授業づくり」では、「自信をもたせる授業」「コミュニケーション能力を育む授業」「一人一人の実態に配慮した授業」の三つの視点を元に「いつ」「どこで」「誰が」「何をする」を明確にした具体的な取組を立てて、D（実行）をした。</p>
<p>C（点検）</p>	<p>A（改善）</p>
<p>『子どもの変容』では、教師の具体的な取組が、子どもや学級にどのように変容したと感じるかを具体的に記入した。また、『教師の振り返り』では、子どもの変容につながった教師の意図的な取組のよさを考察し記入した。</p>	<p>a. 具体策等の適正化では、現在の具体的な目標を改善し、訂正したい箇所それぞれ記入した。また、b. 具体策の追加では、現在の具体的な目標を継続しながら、さらに追加したい箇所にそれぞれ記入した。</p>



『集団づくり』の実施シート

ア. 集団づくりの具体的な目標設定について

- ・ 学級担任及び特別支援学級担任は、自分の学級の目標設定をした。
- ・ 各学年主任は、副担任と一緒に、自分の学年の目標設定をした。（特別支援学級も同様）
- ・ 生徒指導主事は、学校全体の目標設定をした。

イ. 授業づくりの具体的な目標設定について。

- ・ 先生方は、所属学年で教えている教科の具体的な目標設定をした。（ただし、学年職員で同一の教科が重なってしまった場合、その先生方で話合って、授業づくりの具体的な目標設定を行った。）
- ・ 特別支援学級において、学級担任が、副担任と一緒に目標設定をした。

(2) PDCAサイクル第2期の取組の詳細（9月～12月）

ア. 第2期の目標設定について

※ 第1期の考え方を引き続き、取り入れて行った。さらに『集団づくり』と『授業づくり』の目標設定において、以下の二つのことを意識した。

- ① 目標設定の記入では、手段が目標にならないように、どのようにすることが目標達成になるのか、教師の関わり方をより具体的に記入したこと
- ② 教師主体の取組から生徒主体の取組にできる限り実施できるようにしたこと

イ. 目標設定の取組について

- ・ 『集団づくり』では、アンケート結果だけでなく、学校で実施したQ-Uの結果を活用や学年主任及び生徒指導主事のアドバイスを参考に、各先生方が具体的な目標設定を行った。
- ・ 『授業づくり』では、とちぎっ子学習状況調査や夏休み実施した学習研修会を活用し、教科ごとに集まって、KJ法を行い、先生方から意見を出してもらいながら、目標設定を行った。（※第2期では、学年ごとで教科の目標設定をするのではなく、各教科で集まり、教科部会で目標設定をした。）



ウ. 目標のC（点検）及びA（改善）の記入について

C（点検）	A（改善）
<p>『子どもの変容』では、教師の意図的な取組を行うことで、生徒の姿からみられる変容が具体的にどんな場面で見られたのかを詳細に記入した。</p> <p>『教師の振り返り』では、教師側が、どのような意図的な取組を行ったから、子どもの変容につながったのかを詳細に記入した。</p>	<p>a. 具体策等の適正化及びb. 具体策の追加では、最後の『何をする』の項目に、今回の取組が次の第3期の取組につながるような文章で締めくくるよう、意図的に行った。</p>

<p>【課題】 話し合い活動の内容を明確にすることが必要なのか、また、ただ話をするだけでなく、自分の考えが深まるように話し合いの手順や聞く態度を作る必要があるのではないのか。</p>	<p>【具体的な取組】 ② コミュニケーション能力を育む授業づくり ○いつ 授業の後半 ○どこで 教室・被服室 ○誰が 教師 ○何を担任 教科担任 ○何をするか 自分の考えを深めることができるよう、自分の考えをまとめた後に、3～4人のグループ活動で共有を回り、見直しと明確な目的を持った話し合い活動を行ったり、学び合ったりする。</p>	<p>【子どもの変容】 自分の考えをまとめる時間をきちんととり、その後意見交換をしたことで、話し合いの力がスムーズに行けたと、また、主体的に行う生徒の姿も見られた。 【教師の振り返り】 見直しをもとに、時間配分も1人が行うことで、意見を述べ合い場面や話し合い場面が多く見られるようになった。</p>	<p>【これまでの取組】 a. 具体策等の適正化 ○いつ 授業の後半だけでなく、授業のどこで ○誰が 誰か ○何をする 家庭科で学ぶのは、いろいろな科目もそのとら、視野を広げることも大切なので、自分の 【これまでの取組】 a. 具体策の追加 ○いつ 12月か、おはようございます ○どこで どの教室か ○誰が 先生 ○何をする 他人まかせではなく、自分ごととして。</p>
---	--	---	--

第2期実践シートの実際の記入

(3) PDCAサイクル第3期の取組の詳細(1月~3月)

※ これまでのPDCAサイクルの流れをより意識するために、右の図の実践シートに変えた。

【計画】	【実行】	【点検】	【改善】
【計画】 【具体的な取組】 ② コミュニケーション能力を育む授業づくり ○いつ 授業中 ○どこで 教室、被服室 ○誰が 教科担任 ○何をするか 自分の考えをしっかりと、話し合い活動が行えるよう、また、自分の考えを深められるようにするために、話し合いの質を高める工夫を行う。 ① タブレットやワークシートを人に見せながら、発表し合う場面を設ける。 ② 話し合いで聞いた意見をふまえて、自分の考えを深められるワークシートの工夫を行う。	【実行】 【子どもの変容】 ① 作業や活動も途中であらめず、最後までやりとる割合が多くなった。 ② 発表ができて、時間を待つことが、自分の考えを伝えようとするようになった。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。 【教師の振り返り】 教師の意図的に個人で考える時間を確保し、再度個人で話し合いを行ったことで、自分の考えをまとめることができた。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。	【点検】 【子どもの変容】 子どもの姿や学級(学年)の変容につながる教師の意図的な取組実践は、教師が生徒に何をしたことにつながったと考えられますか。 ① 意図的に「個人-グループ-個人」となる授業形態にしたことが、できていないところの話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 ② また、話し合い活動において意図的に話し合いを促すことで、話し合いの質が高まった。 ③ 話し合いの時間を意図的に設けることで、一人ひとりの思考力への理解が深められることにつながった。	【改善】 【子どもの変容】 話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 【教師の振り返り】 話し合いの質が高まったことにより、自分の考えを深められるワークシートの工夫が効果的であった。
【計画】 【具体的な取組】 ② コミュニケーション能力を育む授業づくり ○いつ 授業中 ○どこで 教室、被服室 ○誰が 教科担任 ○何をするか 自分の考えをしっかりと、話し合い活動が行えるよう、また、自分の考えを深められるようにするために、話し合いの質を高める工夫を行う。 ① タブレットやワークシートを人に見せながら、発表し合う場面を設ける。 ② 話し合いで聞いた意見をふまえて、自分の考えを深められるワークシートの工夫を行う。	【実行】 【子どもの変容】 ① 作業や活動も途中であらめず、最後までやりとる割合が多くなった。 ② 発表ができて、時間を待つことが、自分の考えを伝えようとするようになった。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。 【教師の振り返り】 教師の意図的に個人で考える時間を確保し、再度個人で話し合いを行ったことで、自分の考えをまとめることができた。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。	【点検】 【子どもの変容】 子どもの姿や学級(学年)の変容につながる教師の意図的な取組実践は、教師が生徒に何をしたことにつながったと考えられますか。 ① 意図的に「個人-グループ-個人」となる授業形態にしたことが、できていないところの話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 ② また、話し合い活動において意図的に話し合いを促すことで、話し合いの質が高まった。 ③ 話し合いの時間を意図的に設けることで、一人ひとりの思考力への理解が深められることにつながった。	【改善】 【子どもの変容】 話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 【教師の振り返り】 話し合いの質が高まったことにより、自分の考えを深められるワークシートの工夫が効果的であった。
【計画】 【具体的な取組】 ② コミュニケーション能力を育む授業づくり ○いつ 授業中 ○どこで 教室、被服室 ○誰が 教科担任 ○何をするか 自分の考えをしっかりと、話し合い活動が行えるよう、また、自分の考えを深められるようにするために、話し合いの質を高める工夫を行う。 ① タブレットやワークシートを人に見せながら、発表し合う場面を設ける。 ② 話し合いで聞いた意見をふまえて、自分の考えを深められるワークシートの工夫を行う。	【実行】 【子どもの変容】 ① 作業や活動も途中であらめず、最後までやりとる割合が多くなった。 ② 発表ができて、時間を待つことが、自分の考えを伝えようとするようになった。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。 【教師の振り返り】 教師の意図的に個人で考える時間を確保し、再度個人で話し合いを行ったことで、自分の考えをまとめることができた。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。	【点検】 【子どもの変容】 子どもの姿や学級(学年)の変容につながる教師の意図的な取組実践は、教師が生徒に何をしたことにつながったと考えられますか。 ① 意図的に「個人-グループ-個人」となる授業形態にしたことが、できていないところの話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 ② また、話し合い活動において意図的に話し合いを促すことで、話し合いの質が高まった。 ③ 話し合いの時間を意図的に設けることで、一人ひとりの思考力への理解が深められることにつながった。	【改善】 【子どもの変容】 話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 【教師の振り返り】 話し合いの質が高まったことにより、自分の考えを深められるワークシートの工夫が効果的であった。

PDCA 3サイクルを見通した実践シート

イ. 教師による年間の振り返り

- 『集団づくり』及び『授業づくり』におけるC(点検)及びA(改善)では、個人による第3期の振り返り(子どもの変容・教師の振り返り)を行った。
- 『集団づくり』及び『授業づくり』における年間の振り返りでは、生徒の変容につながる教師の意図的な取組実践は、教師が生徒に何をしたことにつながったと考えられるか。を考慮することで、1年間の取組のリフレクションを行った。

【具体的な取組】	【子どもの変容】	【年間を通した振り返り】
② コミュニケーション能力を育む授業づくり ○いつ 授業中 ○どこで 教室、被服室 ○誰が 教科担任 ○何をするか 自分の考えをしっかりと、話し合い活動が行えるよう、また、自分の考えを深められるようにするために、話し合いの質を高める工夫を行う。 ① タブレットやワークシートを人に見せながら、発表し合う場面を設ける。 ② 話し合いで聞いた意見をふまえて、自分の考えを深められるワークシートの工夫を行う。	① 作業や活動も途中であらめず、最後までやりとる割合が多くなった。 ② 発表ができて、時間を待つことが、自分の考えを伝えようとするようになった。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。 【教師の振り返り】 教師の意図的に個人で考える時間を確保し、再度個人で話し合いを行ったことで、自分の考えをまとめることができた。また、自分の考えを深められるワークシートの工夫により、話し合いの質が高まった。	子どもの姿や学級(学年)の変容につながる教師の意図的な取組実践は、教師が生徒に何をしたことにつながったと考えられますか。 ① 意図的に「個人-グループ-個人」となる授業形態にしたことが、できていないところの話し合いの質が高まり、友達や教師に聞いてやりとりし、自分の考えを深められるようになった。 ② また、話し合い活動において意図的に話し合いを促すことで、話し合いの質が高まった。 ③ 話し合いの時間を意図的に設けることで、一人ひとりの思考力への理解が深められることにつながった。

第3期の実践シートにおける年間の振り返り

- 『授業づくり』では、教科部会での話し合いにより、目標設定をしたため、個人による振り返りだけでなく、教科部会において、今年度の効果的な取組及び次年度に向けてを話合った。(※次頁にて詳細を記載)

【各教科における「今年度の効果的な取組」と「次年度に向けて」】

教科	今年度の効果的な取組	次年度に向けて
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペア・グループで意見を確認し合う場の設定及び全体発表につなげる流れの構築 (自信をもって発表できるようになった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の取組の継続実施
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の振り返り・まとめ学習 (スライドまとめ等) ○ 資料の意図的な提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒自身が問いを発する授業づくり ○ 話合いが深まるテーマ設定 ○ 基礎・基本の定着
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合いを効果的に行うための個人で考える時間の意図的な確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個人で考える習慣が身につくまで教師による積極的な支援
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び合いの場づくり <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「考えてみよう」での話し合い ・思考問題の時間設定・難易度調整と教え合い ・簡単な操作・実験でも「分かった」「できた」を実感させる学び合い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月から今年度の取組を継続実施 ○ 振り返りの効果的活用
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○ small talk の継続的な帯活動 (よくできていた生徒への賞賛し、生徒の自信につながった。) ○ 振り返りシートの工夫 (わかるようになったことを記述し、生徒の自信につながった。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ small talk の継続的な帯活動 ○ 即興スピーチの導入 ○ 振り返りシートの改善
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しをもたせた授業の流れ提示 ○ 個人→グループ→個人の学習形態の工夫 ○ 役割分担の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ・振り返りの強化 ○ 問題解決能力の育成 (自分でできることを増やす)
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を見合う時間を意図的に設定し、よさを伝え合うことによるコミュニケーション能力の向上 (昼休みの補習での積極的な教え合いがみられた。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作時間不足の改善 (生徒が自分で考え、失敗しても、修正するための経験を確保したい。)
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科担任による賞賛活動継続により、生徒同士での拍手及び賞賛の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女が一緒に活動できるような声かけの工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱授業で生徒同士の話し合い活動や自分たちの歌唱を客観視したことによる良い点の共有 (そのことにより、生徒は自信が付き、コミュニケーション能力の向上につながった。) ○ 器楽での教え合いを取り入れたことによる技能及びコミュニケーション能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5分間の振り返り時間の確保
むつみ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間内に解決できる量を予想させてからの取組 ○ 生徒が取組を達成できた際の教師による賞賛 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題内容と難易度の段階的向上 ○ 長時間継続して取り組む力の育成

4. 取組の実践例

《学びに向かう集団づくり》(第3学年)


PDCA(第1期)5月～8月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】</p> <p>帰属意識の高い学級づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 担任が、朝会及び終会等に、教室等で</p> <p>○ <u>何を</u>するか</p> <p>① 生徒の意見やプログラム委員の話からクラス全体の目標を設定し、協力して達成できるようにする。</p> <p>② クラスの目標を周知したり、達成状況を見たりするために掲示物を作成する。</p>	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ 生徒が目標をクラス全体で把握したことで、目標に向かって頑張ろうとする姿が見られた。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ 今まで立ててきた目標よりも具体的に立てるように声掛けをしたことで、より意識して生活するようになったと考えられる。</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>○ さらに、今までの取組に加えて、生徒と担任が、目標達成できた項目について生徒が書きこめる(視覚化できる)ような掲示を生徒と一緒に作成する。</p>
PDCA(第2期)9月～12月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】</p> <p>帰属意識の高い学級づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 担任が、朝会及び終会等に、教室等で</p> <p>○ <u>何を</u>するか</p> <p>① 学校行事などに向けてクラスで目標を立てたり、話しあったりしたことを掲示して、一つのことに取り組めるようにする。</p> <p>② プログラム委員や日直がクラスのよかった点や改善点をホワイトボードに記入し、全体に共有する。</p>	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ 学校行事に向けて、子どもたちが目標を設定し努力する姿が見られた。</p> <p>○ クラスの仲がよくなって嬉しいという声も多く聞かれた。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ 生徒たちで目標を決めさせたことで、自分たちで頑張りたいという気持ちが向上したと考えられる。</p> <p>○ 生徒に役割を与え協力する機会が増えたことで、自然とコミュニケーションが活発になり、仲のよさや帰属意識の向上につながったと考えられる。</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>○ ②の取組に対して、担任が伝えるのではなく、日直がよかった点を直接伝えられるよう修正する。</p> <p>○ さらに、今までの取組に加えて、担任が終会等に教室で仲の良さを深めたり、話をする機会づくりをしたりするために1分間スピーチ(テーマはクラスで考える)等に取り組む。</p>
PDCA(第3期)1月～3月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】</p> <p>互いに高め合える学級づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 生徒と担任が、昼休み、朝会、終会等に教室等で</p> <p>○ <u>何を</u>するか</p> <p>① 進路実現や笑顔で卒業などの目標に向かって生徒同士で協力し合い、主体的に取り組むために、生徒の意見を取り入れた掲示物や活動を行う。</p> <p>② 生徒同士のコミュニケーションの活発化や友達の新たな一面を知り、よさを発見するために、終会などでクラスから出たテーマで1分間スピーチなどを行う。生徒同士で会話する機会を増やしていく。</p>	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ 受験や卒業に向けて、団体としての目標を意識して生活できるようになった。</p> <p>○ 1分間トークの話題について、その場以外でも話す様子も見られた。</p> <p>○ 男女ともに話す機会が増えた。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ クラスでの取組から話す機会が増えたことにより、お互いのことをよく知り、お互いに目標に向かって頑張ろうという意識が向上したと考えられる。</p> <p>(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会の1分間トーク ・卒業カウントダウンカレンダー(みんなのメッセージ) <p>→ 感謝の気持ちや卒業式を頑張りたいなど</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>【年間の振り返り】</p> <p>○ 生徒の実態を把握し、具体的な取組を実践することで、生徒の変容が多く見られた。</p> <p>○ 会話の少なさや目標に向かって活動する難しさといった課題が明らかになり、実態に応じた段階設定や協力的な活動を通してコミュニケーションが促進された。</p> <p>○ 卒業に向けた思いを共有する中で、一人一人が自分のできることを考え、クラスのために行動する姿が見られた。</p>



《子どもが意欲的に取り組む授業づくり》（第2学年・家庭科）

PDCA(第1期)5月～8月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】 コミュニケーション能力を育む授業づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 教科担任が、毎授業に、授業の後半で</p> <p>○ <u>何をするか</u> 本時の学習した内容を踏まえて、自分ならどうするかを考える時間を設け、それをグループで伝え合ったり、教え合ったりする。</p>	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ グループで発表し合う際に一人の持ち時間を決めることで全員が発表し、全員が班員の意見を聞くようにすることができた。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ 発表内容を明確にし、時間配分をすることで、発表することをに臆せず、スムーズに意見交換ができるようになってきた。</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>○ さらに、今までの取組に加えて、本時の学習した内容を踏まえて、自分ならどうするかを考える時間を設け、それをグループで伝え合ったり、教え合ったりする時間を確保する。</p>

PDCA(第2期)9月～12月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】 コミュニケーション能力を育む授業づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 教科担任が、授業の後半に、教室・被服室で</p> <p>○ <u>何をするか</u> 自分の考えを深めることができるよう、自分の考えをまとめた後に、3～4人のグループ活動で共有を図り、見通しと明確な目的を持たせた話し合い活動を行ったり、学び合ったりする。</p>	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ 自分の考えをまとめる時間をきちんととり、その後、意見交換をしたことで話し合い活動がスムーズに行うことができた。</p> <p>○ まとめの掲示物作成を主体的に行う生徒の姿も見られた。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ 見通しをもって、時間配分を、しっかり行うことで、意見を伝え合う場面や、教え合う場面が多く見られるようになってきた。</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>○ さらに、今までの取組を改善し、授業の中盤・後半に、自分の考えを伝えつつ、他の意見を聞いたことでよりよいものは何か、よりよくするためには、どうしたらよいかを考えられる力をつけるようにする。</p>

PDCA(第3期)1月～3月		
P(計画)・D(実行)	C(点検)	A(改善)
<p>【具体的な取組】 コミュニケーション能力を育む授業づくり</p> <p>○ <u>誰が、いつ、どこで</u> 教科担任が、授業中に、教室・被服室で</p> <p>○ <u>何をするか</u> 自分の考えをしっかりとって、話し合い活動が行えるよう、また、自分の考えを深められるようにするために、話し合いの質を高める工夫を行う。</p> <p>① タブレットやワークシートを人に見せながら、発表し合う場面を設ける。</p> <p>② 話し合いで聞いた意見をふまえて、自分の考えを深められるワークシートの工夫を行う。</p> 	<p>【子どもの変容】</p> <p>○ 作業や活動を途中であきらめず、最後までやろうとする姿が多く見られた。</p> <p>○ 発表ができずに時間を待つことなく、自分の考えを伝えようと、まわりがうなづきながら、聞く姿が見られた。</p> <p>○ ふり返りシート(ロイロノート)に具体的に考えを書くことができたようになった。</p> <p>【教師の振り返り】</p> <p>○ 教師が意図的に、個人で考える時間、班で話し合う時間、再度個人で考える時間を設けたことで、具体的に自分の意見をまとめることにつながったと考える。</p> <p>○ 意見交換を多くとり入れたことが、ものづくりにおいて、友達に聞きながらも自分の力で、頑張ろうとすることにもつながったと考える。</p>	<p>○ これまでの取組を継続する。</p> <p>【年間の振り返り】</p> <p>○ 意図的に「個人-グループ-個人」となる授業形態にしたことが、できないところをそのままにするのではなく、友達や教師に聞いてやってみようとする意欲的な態度につながったと考える。</p> <p>○ 話し合い活動において、意図的に役割を与えることで、班員全員が参加する話し合いにすることができたと考える。</p> <p>○ ふり返りの時間を意図的に設けることで、一つ一つの題材への理解が深められることにつながったと考える。</p>

5. 成果

(1) 集団づくり

ア. 生徒の変容

- 生徒一人一人のよさや努力を日常的に見取り、意図的に認め、賞賛する関わりを続けたことで学級に安心感が生まれ、教師や友達の話をも大切に聞こうとする姿や、落ち着いて学びに向かおうとする態度が定着してきた。
- 学校行事等において、達成目標を話し合い、設定・共有する活動を意図的に取り入れたことで、活動の目的を自分事として捉え、進んで仲間と協力し合い、心をつなげて取り組もうとする姿が多く見られるようになった。
- 互いのよさやがんばりを認め合う活動を重ねたことで、自己や他者を肯定的に捉える意識が高まり、生活アンケートや生活ノートにおいて、自分や友達のよいところを具体的に記述する生徒が増えた。

イ. 先生方の意識

- 生徒一人一人のよいところやがんばりなどを見取り、意図的に認め賞賛し、さらにその具体的な方法などを工夫することで、より安心して学ぶことができる集団づくりに取り組むことができた。
- 学校行事等に際して、達成目標の話し合い・設定・共有する活動を意図的に行うことで、生徒が自分事として心をつなげて協力・団結する気運を生み出し、生徒同士互いに高め合える学級集団へと成長させることなどもできた。

(2) 授業づくり

ア. 生徒の変容

- ペア活動・グループ活動において、役割を意識しながら互いの考えを聞き合い、自分の意見や考えを安心して発言する姿が増え、協働して学習を進めることができるようになった。
- 学習内容に対して受け身ではなく、「分からないことを分かるようになりたい」という思いをもって、教師や友達に自ら問いかけ、学びを深めようとする主体的な行動が多く見られるようになった。
- 学習の見通しをもちやすい環境や、個に応じた課題・支援の工夫により、途中であきらめることなく、意欲をもって最後まで課題に取り組み、達成感を味わおうとする姿が定着してきた。

イ. 先生方の意識

- 中学校の教科担任制のよさを生かして、教科ごとに具体的な取組を全学年一環して行うことにより、工夫を重ねながらペア・グループ活動など協働で学び合う場を意図的・効果的に設定することで、生徒同士が互いに安心して発言できるようになり、自信をもって主体的に学びに向かう授業づくりとなっていく。
- 一人一人の実態に配慮し、見通しをもたせた上で、具体物の使用やタブレットなどのICTの活用等、また個に応じた学習課題の設定・提示・活動方法や時間等を日々適切に調整していくことで、生徒が安心して主体的に学習に取り組むことができることをあらためて実感することができた。

6. 今後の取組

- PDCAサイクルに基づき実践と振り返りを重ねることで、生徒や学級の実態に合った支援の在り方を明確にすることができた。その中で成果が見られた集団づくりの取組を全校で共有し、どの学級・学年においても意図的で具体的な実践として継続することで、生徒が安心して過ごせる学校づくりをさらに推進していく。
- 生徒の学習意欲の高まりや前向きな姿勢が多く見られるようになった一方で、その成果を学力向上へ確実につなげていくことが課題として明らかになった。今後は、毎時間の「まとめ」や「振り返り」を一層重視し、生徒自身が学びの成果を実感できる授業づくりを全校で進めていく。
- コミュニケーション能力を育む授業づくりに取り組んだことで、話し合い活動の工夫や改善が各教科で広がり、生徒同士が関わりながら学ぶ姿が見られるようになってきた。これらの成果を生かし、次年度も話し合い活動の目的や方法を工夫しながら、学びを深め合う授業を一層充実させていく。
- 実践を振り返る中で、教職員の意図的な働きかけや合理的配慮を前提とした支援が、生徒の安心感や自信の育成につながっていることを確認することができた。今後も、うまくいっている実践を共有し合いながら教職員同士の学び合いを大切にし、全ての生徒が安心して学べる学校づくりを継続していく。

7. 参考資料

(1) 意識調査の結果

